

パーティボート エンジェルハープ

Party Boat ANGEL'S HARP

三上 宏 Hiroshi Mikami 青柳三樹夫 Mikio Aoyagi 横大路裕信 Hironobu Yokooji

●ヤマハ蒲郡製造(株) 開発部



図1 エンジェルハープ

1 はじめに

海でのクルージングとは違って、川で乗る船のロマンはまたひと味違うものがある。東京・大阪では、川で行き交う大小の客船が見られるが、名古屋では少なかった。堀川は、名古屋城築城のおり開削した運河で、名古屋港から市の中心部に向って流れており、その堀川に3年前、御座船「義丸」が竣工した。今回「義丸」の船主である東山ガーデン(株)(以下、船主という)より、第2船目の建造の依頼があった。「エンジェルハープ(図1)」は「義丸」とは趣を異にするが、音楽結婚式場などを経営する船主と建造に携わった関係者のロマンをいっぱい詰め込んでおり、様々なパーティの楽しさを是非一度味わって頂きたい、ここに紹介する。

2 開発の狙い

(1) 船主は、総トン数20t未満で、自分が望む経営体系で運航できる最大限の船を希望しており、どのようにして客室を大きく取るかということが問題であった。そこで、床下でメンテナンスできるぎりぎりまで客室床を下げた。主機排気管が甲板上に飛び出るまで機関室甲板も下げ、飛



図2 客室内風景

び出たものは周囲の装飾物でカバーするなど、機能とデザインを一体化しながら、お互いが譲れる接点を見つけ、客室面積を増やしつつ船の長さを最大限長くした。(図2)

(2) 「船に乗れば高いところで潮風に吹かれてみたい。」という気持ちを具現化するために、遊歩甲板(2階)の定員をどこまで多く取れるかが問題であった。そこで、遊歩甲板面積はできるだけ広く取り、いすにより人の左右移動距離を制限して、広々感と安全な復原性能を確保した。

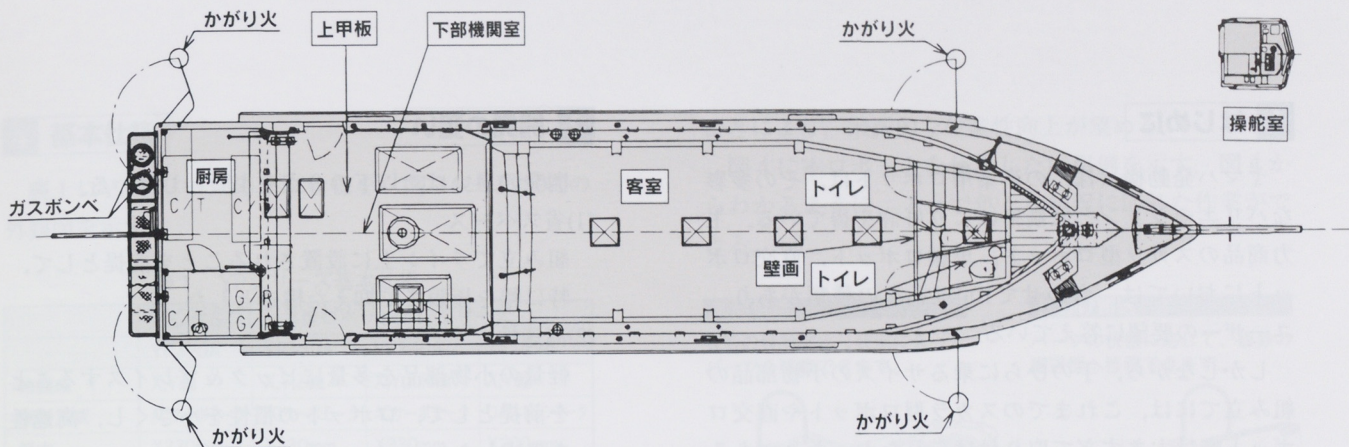


図3 船内配置図

- (3) 行き交う船の曳き波も多い中、狭い名古屋港ポートタワー桟橋への離着岸で、船が揺れては船長の腕が良くてもカバーできないので、横揺れをどう押さえるかという問題がある。そこで、減揺装置の一つであるビルジキールを採用した。今回は長さを短くし、取り付け位置を最大幅で水面下の深いチェーン部に絞り成果を収めた。
- (4) 室内において、会話を妨げる騒音は、心に残るパーティにはならない。主機3/4出力時客室の騒音を65dB(A)以下とする必要があった。そこで、防音防振材の使用はもとより、ハイスキュープロペラの採用をはじめ、船底とのクリアランスも20%とり、さらに音の漏れとなる配管、配線の貫通部のシールなどを徹底的に行い、64dB(A)を実現した。
- (5) 結婚披露パーティは、ロマンチックに演出したいものである。そこで、外観は、白を基調にロマンの薫り満ちあふれる3本マストの帆船タイプとし、まさに人生の門出を祝福するにふさわしいものとした。装飾の彫刻や室内の壁画は本船用にデザインしたもので、今は数少ない欄間の彫師と壁画職人に製作を依頼し、本物志向で表現した。
- (6) 船上パーティを盛り上げる厨房は、ただ単に食事を提供するのではなく、「お客様に参加して頂く」ことを考えて船主が自ら配置設計した。

3 主要目

主要目を表1に、船内配置図を図3に示す。

表1 主要目

全長	25.25m	全幅	4.83m
登録長	16.85m	登録幅	4.57m
登録深さ	1.35m	総トン数	19Gt
最大搭載人員(客室定員)	130名(72名)	燃料容積	1200 L
清水容積	1000 L	満載排水量	35.2t
資格	JCI平水旅客船		
主機関	ヤマハMD629KH 1基 285PS/2900rpm 320PS/3000rpm 減速比 3.45		
プロペラ	3翼固定ピッチハイスキュー D850×P680×Ar0.6		
発電機	200V 3相 30kw 1台 200V 単相 20kw 1台		
主な装備	サイドスラスタ (スラストカ 280kgf) 1台 舵 (リンクラダー) 1台 厨房 コールドテーブル 3台 流し 2台 ガスコンロ 2台		

4 おわりに

JCI平水旅客船で客室定員を最大限多く取り、さらに船を大きく見せるという新たな挑戦を要求された船であった。また、デザインと機能面の妥協点をどこにするのか、を考えさせられた船でもあった。東山ガーデン(株)渡辺社長の熱意に深く感謝するとともに、多くの制約の中でXebecデザイン(株)を始め、本船完成に惜しみなく力を注いで頂いた皆様に、紙面をお借りしてお礼申し上げます。